

報告

平成22年度病院管理研修会

「砂川市立病院建設のコンセプト」

—人口2万人弱の過疎地に出現したMega Hospital—

講師 砂川市立病院

院長 小熊 豊先生

常任理事・医療関連事業部長 北野 明宣

当会と北海道病院協会の共催で昨年12月5日(日)に札幌全日空ホテルで開催し、123名が聴講した。

小熊先生は、人口2万人弱の砂川市にある診療科目22科、病床数521床、医師数81人、職員総数764人を抱える中空知地区の基幹病院となっている砂川市立病院の院長である。

今回の講演では、昨年10月28日に新本館開院となった病院建設のコンセプトや地域における自治体病院の役割等について熱く語られた。

以下、講演要旨を紹介する。

【要 旨】

医療とは、生命と健康を守る保障である。病院改築に当たっては生命と健康にかかわるセキュリティシステムを医療として捉えて、実際にどのような形で医療を構築したら良いのか、構築するためにはどれだけの費用が必要か、その費用をどのように分かち合うのかという考え方を持つことが基本ではないか。基礎的ニーズが住民にあり、住民の生命と健康を守ることが病院の役割・使命である。

医療の崩壊といわれているが、その前にまず病院が崩壊する。病院が崩壊し医療が崩壊するとセキュリティシステムが崩壊する。そして地域が崩壊する。砂川市は病院がなければ瞬く間に崩壊するという実情にある。

医療のキーワードは『納得』。セキュリティシステムに対する住民や患者側の納得、医療の内容に対する納得、また、われわれ医療者は、環境やモチベーションで納得できれば良い。患者側・医療者側の『納得』が満足であれば一番理想の姿だが、必ずしも満足には到達しないのが現状である。『納得』ということを大きなテーマに医療をやっていきたい。

自治体病院は、その地域に不足している医療に積極的に取り組むとともに、地域の医療機関や行政機



関等と連携し、地域住民の健康の維持・増進を図りながら、地域の発展に貢献することを使命としている。役割としては、①地域において必要な医療・不足する医療の提供、②民間医療機関が提供することが困難な医療の提供、③地域における医療水準の維持・向上である。

当病院は、『良質の医療、心かよう安心と信頼の医療を提供する病院』『地域に根ざし、地域に愛され、貢献する病院』を理念としており、誠実・信頼・的確・発展を職員のモットーとしている。

砂川市の総合計画である、「福祉・医療を核としたまちづくり」の中心的な役割を果たすため病院改築を考えた。改築に当たってのコンセプトは、①地域で担うべき医療への対応、②安全・安心・快適な療養環境への対応、③大規模災害への対応、④医療提供体制の改善と職員のモチベーションの維持などであるが、特に職員が納得できる医療環境をつくるということが大きな理由である。

まずはレセプトデータを活用し、地理的条件や地域特性を踏まえた医療圏を考え、必要施設・必要人員の検討を行った。また、医師の地方勤務義務化は避けて通れない問題である。

地域に必要な自治体病院として、バランスの取れた公民共同体制、開設者とのパートナーシップ、院長のリーダーシップ、職員のプロフェッショナルシップ、住民とのフレンドリーシップが必要であり、住民が本当にこの地域に残ってほしいと思う病院、物から技へ、技からシステムへとシフトしていかなければならない。

住民には適正受診を願い、何を望むか、何を我慢するかを納得して考えてもらわなければいけない。また、われわれ医療提供側は住民に納得していただける説明をしなければいけない。そして、人材を育成し継続性を持って、魅力ある医療とは何かを検討すべきと考える。